

政策目標	4	場の力が創造する魅力・活力のあるまち
施策分野	1	観光の振興

課（係）名	観光課		
作成年度	平成27年度	（更新日）	平成27年4月1日

目的	管理指標	実績 (H26年度末)	目標	期限	左記指標の過去の推移			
					(H24年度末)	(H25年度末)	備考	
基本計画	多くの人が訪れ、満足していただける観光都市を目指します。	来遊客数	639万人	680万人	27年度	644万人	647万人	暦年統計
		観光客の満足度	73%	100%	27年度	64%	58%	
目的を達成するための具体的な方策	01 地域資源を活用した観光事業の推進	年間来遊客数	639万人	680万人	27年度	644万人	647万人	
	02 おもてなしの心の育成と交流の推進	自然歴史案内人養成講座数	2講座	7講座	27年度	2講座	2講座	
	03 外国人観光客の誘客推進	外国人宿泊客数	52,383人	100,000人	27年度	18,479人	23,011人	暦年統計
	04 観光ニーズに対応した情報の発信	観光協会HPのカウンント数	1,784,786回	1,300,000回	27年度	1,355,972	1,348,361回	
	05 観光施設の高付加価値化	整備事業数	10事業	12事業	27年度	8事業	16事業	

市民との協働方策	《平成26年度末時点の活動状況》		《平成27年度の改善のポイントや重点方向等》
	01 市民のイベントボランティアへの参加	毎年、イベントボランティアを募集し、希望するイベントへの参加意向を聞く中で、対応しているが、平成26年度は、13事業に138人がその運営に従事した。また、宣伝ボランティアには東京、神奈川の飲食店2店及び2社に参加いただいた。	宣伝ボランティアについては、市外の在勤者ではなく、市外在住の元市民に協力していただいたので募集対象を本市にゆかりのある方も対象として協力者の増を図る。
02 第一次産業と連携した観光の振興	伊東温泉めちやくちや市において、あいら伊豆農協及びびいとう漁協の協力で地場産品の出展や物産を使った加工品を販売し地産地消の普及に努めるとともに産業課主催の地場産品を使った創作料理コンテストを共催した。	水産庁主催の「Fish-1グランプリ」においてグランプリを獲得したいとう漁協の「金のだし茶漬け」を地元グルメとして活用していく。	

《実績評価》

(1) 基本計画指標の達成度

- 全国的に景気が上向きとなったことにより宿泊者数は前年に比べ11万人の増となったものの、来遊客数は対前年度98%であった。

(2) 「目的を達成するための具体的な方策」の達成度

- 【01地域資源を活用した観光事業の推進】景気の回復に伴い宿泊客は増加したものの、来遊客は減となった。
- 【03外国人観光客の誘客推進】外国人来遊客は東日本大震災の影響も解消され、さらには円安も重なり前年対比で76%以上の増となった。
- 【04観光ニーズに対応した情報の発信】観光協会HPの見易さ、扱い易さを更に向上させる。
- 【05観光施設の高付加価値化】
- ・伊豆半島ジオパークの世界認定に向け、ジオサイトの整備を推進した。（大室山ジオサイト・城ヶ崎ジオサイト・奥野ジオサイト）
- ・観光施設利用者の利便性及び安全性向上のため、ユニバーサルデザイン化や修繕整備を行った。（観光トイレユニバーサルデザイン整備2箇所・東海館改修）
- ・観光施設としての新たな魅力創出のため、既存観光施設の価値を高める整備を行った。（マリンタウンプロムナード整備・小室山公園整備・伊東公園整備・なぎさ公園整備）

方策コード		手段（4桁コード）内容	管理指標	実績 (H26年度末)	目標	期限	《平成27年度の改善のポイントや重点方向等》
2桁	4桁						
01		地域資源を活用した観光事業の推進					01地域資源を活用した観光事業の推進 ・事業終了後即座に検証を行い合理的かつ効果的な観光政策を進める。 ・地域のアイデア実践事業及びオールシーズンプロモーションにより新たな誘客事業の創出を図る。
	0101	魅力ある観光イベントの創出	新規事業発案数	4事業	3事業	27年度	
	0102	事業の検証によるイベントの精査	精査したイベント数	5事業	3事業	27年度	
	0103	民間事業者との協働による事業数	伊東市誘客対策促進事業費補助金対象事業数	12事業	15事業	27年度	
02		おもてなしの心の育成と交流の推進					02おもてなしの心の育成と交流の推進 ・第2次伊東市観光基本計画に基づき、おもてなし機能の強化として市民特に若い世代に対し「おもてなし力」向上を図る事業を実施する。
	0201	自然歴史案内人会における観光ガイドの育成	自然歴史案内人会の案内人数	79人	100人	27年度	
	0202	観光サポーターの募集・運営	協力延べ人員	138人	200人	27年度	
	0203	子どもたちへの観光学習機会の提供	観光についての学習実施学校数（職場体験含む）	5校	5校	27年度	
	0204	市有観光施設及びイベントでの事故防止対策の推進	市が賠償した事故発生数	1件	0件	27年度	
03		外国人観光客の誘客推進					03外国人観光客の誘客推進 ・県と連携しながら、インセンティブ旅行による大型訪日団の誘致に努める。 ・特に親日感情の高いアジア圏の地域における観光展へ出展やトップセールスにより来日客の増加を図る。
	0301	受入れ体制の整備	事業数	6事業	5事業	27年度	
	0302	プロモーション活動等の推進	実施回数	6回	4回	27年度	
	0303	善意通訳の会への支援	会員数	24人	30人	27年度	
04		観光ニーズに対応した情報の発信					04観光ニーズに対応した情報の発信 ・伊東観光協会HPは情報提供の有力な手段として更新を続けていく。 ・地域資源を活用した新たな着地型旅行商品の造成を図る。
	0401	来誘客のニーズの把握と統計調査の分析	調査項目分析数	15項目	14項目	27年度	
	0402	効果的な観光案内、観光行事の発信	観光協会HPの年間更新日数	365日	365日	27年度	
	0403	着地型旅行商品の企画・実施	年間実施事業数	3事業	2事業	27年度	
05		観光施設の高付加価値化					05観光施設の高付加価値化 ・伊豆半島ジオパークと連携を図りながら、伊豆高原及び伊東港にビジターセンターを整備するとともに、城ヶ崎海岸、観光トイレ、東海館、伊東マリンタウン、松川湖観光施設、小室山公園、なぎさ公園を整備し誘客を図る。 ・観光施設及び観光施設花壇の管理については、委託先の精査を行いながら合理的な管理運営を行っていく。
	0501	地域資源を活かした観光施設の再検証	検証する観光施設数	21施設	21施設	27年度	
	0502	魅力ある観光スポットづくり	整備する観光施設数	10箇所	10箇所	27年度	
	0503	国道沿線等への観光施設花壇の維持管理	植栽回数	2回	3回	27年度	
	0504	観光施設のきめ細かな管理運営	維持管理事業委託契約数	19本	20本	27年度	

政策目標	4	場の力が創造する魅力・活力のあるまち
施策分野	2	健康保養地づくりの推進

課（係）名	◎観光課・健康医療課・産業課 ○生涯学習課	
作成年度	平成27年度（更新日）	平成27年4月1日

目的		管理指標	実績 (H26年度末)	目標	期限	左記指標の過去の推移		
						(H24年度末)	(H25年度末)	備考
基本計画	住む人も訪れる人も元気になるまちを目指します。	お達者度	男性16.77歳 女性19.93歳 (H23年)	男性17.30歳 女性20.68歳	27年度	男性16.43歳 女性19.71歳 (H21年)	男性16.87歳 女性20.20歳 (H22年)	県公表資料による。
		体験型ツアーのプログラム数	40プログラム	45プログラム	27年度	39プログラム	38プログラム	
目的を達成するための具体的な方策	01 健康保養地づくり事業の充実・強化	健康保養地づくりに活用する資源の創出	1事業/年	年間2資源を創出	27年度	0事業/年	1事業/年	
	02 市民の健康意識の向上と健康づくりの推進	運動習慣のある人の割合	男性27.6% 女性17.2% (H25年度末)	男性28% 女性18%	27年度	男性27.1% 女性16.2% (H23年度末)	男性27.4% 女性17.2% (H24年度末)	出典：特定健診・保健指導に係る健診データ
	03 食育の推進	朝食欠食率	成人男性 9.1% 成人女性 8.5% (H25年度末)	成人男性8%以下 成人女性7%以下	27年度	成人男性11.5% 成人女性 7.8% (H23年度末)	成人男性10.5% 成人女性 7.5% (H24年度末)	出典：特定健診・保健指導に係る健診データ
	04 食の安全・安心への取組	エコファーマー数	122人	148人	27年度	119人	120人	
	05 医観連携の推進に資する施設整備	市外在住者の健診センター利用者数	448人	1,000人	27年度	—	240人	

市民との協働方策	《平成26年度末時点の活動状況》		《平成27年度の改善のポイントや重点方向等》
	01 地域や民間団体による積極的な健康づくりへのかかわり	医師会や各種団体と協力して、生活習慣病予防の講演会や食を通じた様々な健康づくりイベント等の開催、民間のスポーツ施設等との協働による健康づくり事業を進めている。	協力可能な民間スポーツ施設、個人や団体等を増加する。

《実績評価》	
(1) 基本計画指標の達成度	<p>・健康寿命は、平成17年からの推移では、男女とも短縮している。健康寿命は、平均余命から介護保険制度利用者を除して算定する計算式となっているため、介護保険サービスが充実し利用者が増す程短縮する結果となるため、高齢になっても、障害を持たずに健康で過ごす人を多くしていくかが鍵となる。</p> <p>・体験型ツアーのプログラム数については、伊豆高原地区の体験施設がメインになっているが、年々施設が減少しているため、今後伊豆半島ジオパークにおける本市のジオサイトツアーとの連携を図る。</p>

(2) 「目的を達成するための具体的な方策」の達成度

【01健康保養地づくり事業の充実・強化】
 ・新たな資源については、飽和状態になっていることから、エリアブランディング事業やオールシーズンプロモーションの中で既存の資源を掘り起こし、さらなる磨きあげにより、リニューアルされた観光資源を活用していく。

【02市民の健康意識の向上と健康づくりの推進】
 ・温泉を利用した水中や陸での運動教室等への参加者は増加が見られ、市民の関心度が高まっていると思われる。
 ・生活習慣病予防のための健康診査の受診者数の減少が見られたため、市民への周知を強化する必要があると思われる。
 ・健康づくり意識向上と健康づくりの推進を図るため実施した各種イベントへの住民参加が一定程度あり、目標達成が図られている。

【03食育の推進（0305学校給食での県内産品の活用）】
 ・掲示物、給食だより、献立メッセージ（校内放送）で、地元食材やふるさと献立の意識を高めた。
 ・学校の畑で採れた野菜や、地域の方が差し入れてくれた野菜を取り入れた献立を実施するとともに、納入業者に地元産の食材を納入してくれるよう依頼した。
 ・定期的に県内産品による郷土料理等を学校給食で実施した。
 （毎月23日の「ふるさと給食の日」：実施平均年7回）（6月・11月の「ふるさと給食週間」：県内産品活用率31%（H23.11月実績））

【04食の安全・安心への取組】
 ・地産地消推進協議会による、第2回めっちゃ美味（ウマ）グランプリを開催し、観光と連携した地産地消の推進を図った。

【05医観連携の推進に資する施設整備】 新病院の医療機能を大幅に向上させることにより、目標値を達成できるようにしたい。

方策コード		手段（4桁コード）内容	管理指標	実績 (H26年度末)	目標	期限	《平成27年度の改善のポイントや重点方向等》
2桁	4桁						
01		健康保養地づくり事業の充実・強化					01健康保養地づくり事業の充実・強化 ・第3次伊東市健康保養地づくり事業計画に基づき本市の自然、歴史、文化を活用した事業を推進していく。 ・重点項目として、伊豆半島ジオパーク構想との連携、ウォーキングコースの再整備、伊東市地産地消推進連絡会との連携による食環境づくり事業及び医観連携による健康診断などのプログラムは商品化について検討し、健康づくり事業の推進を図っていく。 ・オレンジビーチマラソンは第50回の記念大会となるため、節目の大会にふさわしいものになるよう検討を重ねる。 ・シンボル事業である伊東温泉健康フェスティバルの実施に向けた取組みを行っていく。
	0101	体験・交流プログラム・メニューの充実	プログラム数	40プログラム	45プログラム	27年度	
	0102	市民健康づくりプログラムの充実	プログラム数	7プログラム	10プログラム	27年度	
	0103	効果的な情報発信	HPアクセス数	1,113アクセス	5,000アクセス/年	27年度	
	0104	健康保養地づくりシンボル事業の推進	イベント延べ参加者数	延べ3,640人	延べ1万人	27年度	
	0105	オレンジビーチマラソン	申込者数	2,640人	2,500人	27年度	
02		生活習慣病対策					01市民の健康意識の向上と健康づくりの推進 ・23年度に策定した伊東市保健計画に沿って、健康づくり施策を推進し、毎年度末に修正し内容の更新をしている。引き続き、市民への周知の方法を検討し、健康づくり事業への関心を高め参加意識を促すよう努める。
	0201	健康づくり意識の普及啓発	健康フェスタ参加者数	1,000人	前年度実績 (1,000人)より増加	27年度	
	0202	健康づくりのための運動の普及	市主催の運動教室 ^{*1} の延べ参加者数	1,369人	前年度実績 (1,369人)より増加	27年度	
	0203	運動習慣を身に付けるきっかけづくりへの支援	運動初心者を対象にした教室 ^{*2} の延べ参加者数	209人	前年度実績 (209人)より増加	27年度	
	0204	喫煙の害についての正しい知識の普及啓発	禁煙キャンペーン実施数	7回/年	前年度実績 (7回/年)より増加	27年度	
	0205	公共施設における受動喫煙防止の啓発	市設置の公共施設の全面禁煙箇所数	46施設/72施設 (H26年度)	全施設禁煙	27年度	

03 食育の推進					03食育の推進 ・食育は、23年度に策定した食育推進計画に沿って、人づくり部会、まちづくり部会等の開催により、関係機関と連携を強化し、協働事業を行いながら推進していく。 ・食育推進団体等を広く募集して、会議や研修会を通して役割を明確化し、ネットワーク化を目指す。また、人づくり部会では、各世代における食育の具体的な目標設定に取り組む。
0301 食を通じた関係団体のネットワーク化	食育推進団体数 ^{※3} 食育推進者数 ^{※3} 食推協会員数 ^{※4}	23団体 4人 88人	前年度実績 (23団体, 4人, 88人) より増加	27年度	
0302 各世代における食育のあり方の検討	食育人づくり部会 ^{※5} の開催回数	2回	2回	27年度	
0303 各団体の取り組みの確認や情報の共有化	食育まちづくり部会 ^{※6} の開催回数	3回	2回	27年度	
0304 市民の食育に関する意識の啓発、向上	栄養教育相談参加者数 食育活動事業 ^{※7} 参加者数	5,049人 2,512人	前年度実績 (5,049人, 2,512人) より増加	27年度	
04 食の安全・安心への取組					04食の安全・安心への取組 ・第1次産業から第3次産業までの関係団体が協働し、伊東の食文化を戦略的に発信し、地産地消を推進する。 ・有機農業に取り組むNPO法人と連携し、安全で安心な農産物の普及を図る。 ・農業体験事業を通じ、食料自給率の実態を身近に感じてもらおう食農教育を行う。
0401 持続性の高い農業生産方式の導入促進	エコファーマー数	122人	148人	27年度	
0402 環境保全型農法技術指導	受講者数	146人	200人	27年度	
0403 地産地消のための商品開発、流通経路開拓	開発商品採用件数	13件	15件	27年度	
05 医観連携の推進に資する施設整備					05医観連携の推進に資する施設整備 ・救急医療体制については、第二次救急医療を継続して実施するとともに、新病院での救急医療機能の高度化に向け取組を進める。
0501 観光資源として活用できる健診機能の整備	健診センター数	1施設	1施設	26年度	
0502 来遊客の急病等に対応できる救急医療体制	診察日数	365日	365日	26年度	

※1 市主催の運動教室：健脳健身教室、水中運動と陸上運動を組み合わせた健康教室等

※2 運動初心者を対象にした教室：運動を始めたいきっかけエクササイズ、生活習慣病予防教室等

※3 食育推進団体及び食育推進者：市健康医療課に登録している「食育」活動に取り組む組織、団体又は個人

※4 食推協：健康づくり食生活推進協議会。市が実施する養成講座を修了した健康づくり食生活推進員の活動組織（通称エプロンハッスル会）

※5 食育人づくり部会：市の食育推進の具体的な目標や手段について話し合う食育推進担当者連絡調整会議のうち、人づくりについて検討する部会

※6 食育まちづくり部会：市の食育推進の具体的な目標や手段について話し合う食育推進担当者連絡調整会議のうち、まちづくりについて検討する部会

※7 食育活動事業：食育推進団体及び食育推進者等が行う「食」に関する体験会や講演会等

政策目標	4	場の力が創造する魅力・活力のあるまち
施策分野	3	広域連携による誘客の拡充

課（係）名	観光課		
作成年度	平成27年度	（更新日）	平成27年4月1日

目的	管理指標	実績 (H26年度末)	目標	期限	左記指標の過去の推移			
					(H24年度末)	(H25年度末)	備考	
基本計画	(伊豆)地域の幅広い連携を通して、滞在型観光が可能な魅力ある観光地を目指します。	観光交流客数（伊豆半島7市6町）	4,182万人	4,000万人	27年度	3,832万人	3,950万人	
目的を達成するための具体的な方策	01 伊豆観光圏整備事業の強化・充実	観光交流客数（伊豆東海岸2市3町）	1,794万人	2,000万人	27年度	1,772万人	1,744万人	2市3町…伊東市・下田市・東伊豆町・河津町・南伊豆町
	02 伊豆観光推進協議会の強化・充実	観光交流客数（伊豆半島7市6町）	4,182万人	4,000万人	27年度	3,832万人	3,950万人	
	03 伊豆半島ジオパーク構想の推進	ジオサイト整備箇所数	延べ8箇所	15箇所	27年度	6箇所	延べ7箇所	

市民との協働方策	《平成26年度末時点の活動状況》		《平成27年度の改善のポイントや重点方向等》
	01 民間事業者の積極的な事業への取組	伊豆半島ジオパークを市内外さらには国外へ啓発するため、民間組織であるお菓子共和国の協力を得てお菓子による本市ジオサイトの宣伝と伊豆半島ジオパークの周知を市民、観光客、台湾旅行エージェントに対して行った。	伊豆半島ジオパークの世界ジオパーク認定を目指していることから、市内団体との連携をさらに深め、実働組織の確立を図る。

《実績評価》
(1) 基本計画指標の達成度 ・伊豆東海岸国際観光モデル地区整備推進協議会、伊豆観光推進協議会や近年では伊豆観光圏や伊豆半島ジオパーク推進協議会など広域連携による観光振興が進められているが、これらについて各組織の事業検証を行い、平成27年4月1日から美しい伊豆創造センターに事業が移行できるようにしてきた。
(2) 「目的を達成するための具体的な方策」の達成度 【01伊豆観光圏整備事業の強化・充実】伊豆観光圏については、実質的に事業は継続せず、HPの更新及び維持管理のみを実施した。 【02伊豆観光推進協議会の強化・充実】県観光協会と連携し伊豆半島全域への誘客を図るとともに、インバウンドによる誘客事業も実施した。 【03伊豆半島ジオパーク構想の推進】ジオサイトの整備については、城ヶ崎海岸遊歩道・小室山公園恐竜広場・大室山山頂遊歩道・奥野エコーブリッジ及び展望広場等の整備を行った。世界ジオパーク認定に向け、国外への啓発として伊豆東海岸国際観光モデル地区整備推進協議会が実施したトップセールスにおいて、台湾にある地質公園「野柳」を訪問し伊豆半島ジオパークのPRをするとともに、台湾の観光局や旅行者に対して伊豆半島ジオパークの宣伝を行った。

方策コード		手段（4桁コード）内容	管理指標	実績 (H26年度末)	目標	期限	《平成27年度の改善のポイントや重点方向等》
2桁	4桁						
01		伊豆観光圏整備事業の強化・充実					01伊豆観光圏整備事業の強化・充実 ・国の方針が変更されたことにより新観光圏への移行はせず、自然消滅することで合意がなされた。
	0101	滞在型観光商品の充実	観光商品数	0商品	10商品	27年度	
	0102	民間団体との連携強化	協働事業数	0事業	20事業	27年度	02伊豆観光推進協議会の強化・充実 ・県観光協会、美しい伊豆創造センター及び伊豆半島ジオパーク推進協議会等との連携を深め特色ある広域連携に努めるとともに誘客を図る。
02		伊豆観光推進協議会の強化・充実					
	0201	連携強化による情報発信の充実	人気温泉地ランキング (じゃらんリサーチ調)	45位	20位以内	27年度	03伊豆半島ジオパーク構想の推進 ・ジオサイト整備については平成26年度に引き続き来遊客の利便性及び安全性を高める整備を行う。 ・ジオサイトとなる市有施設の整備を随時行う。 ・世界ジオパーク認定に向けて、ビジターセンターを整備するとともに、ビジターセンター海のサテライトを整備する。
	0202	伊豆観光圏・伊豆半島ジオパーク構想との連携の推進	事業数	1事業	3事業	27年度	
03		伊豆半島ジオパーク構想の推進					03伊豆半島ジオパーク構想の推進 ・ジオサイト整備については平成26年度に引き続き来遊客の利便性及び安全性を高める整備を行う。 ・ジオサイトとなる市有施設の整備を随時行う。 ・世界ジオパーク認定に向けて、ビジターセンターを整備するとともに、ビジターセンター海のサテライトを整備する。
	0301	伊豆半島ジオパーク推進協議会事務局に関する こと	世界ジオパークに認定	日本ジオパークネットワーク加盟 (H24.9)	認定	27年度	
	0302	ジオサイト整備計画の策定	進捗率	策定に向けて検討中	100%	27年度	
	0303	ジオサイトの整備・充実	整備箇所数	延べ8箇所	15箇所	27年度	
	0304	ジオパーク構想と各種観光施策の連携	連携事業実施数	1事業	1事業以上	27年度	

政策目標	4	場の力が創造する魅力・活力のあるまち	課（係）名	◎産業課 ○市長公室課	
施策分野	4	商工業の振興	作成年度	平成27年度（更新日）	平成27年4月1日

目的	管理指標	実績 (H26年度末)	目標	期限	左記指標の過去の推移			
					(H24年度末)	(H25年度末)	備考	
基本計画	活発な商工業活動が行われ、働く場が多いまちを目指します。	商品販売額	918億円 (H24年)	1,380億円	27年度	918億円	—	平成24年経済センサス活動調査数値のため
		製造品出荷額	98億円 (H25年)	142億円	27年度	97億円	98億円	平成25年工業統計調査数値のため
目的を達成するための具体的な方策	01 商工業への支援体制の強化	リフォーム助成件数	370件	370件	27年度	270件	368件	前年度からの繰越明許分を含む
		制度融資利用件数	240件	300件	27年度	373件	208件	
	02 地域の商業の活性化	商品販売額	918億円 (H24年)	1,380億円	27年度	918億円	—	平成24年経済センサス活動調査数値のため
	03 雇用の確保	従業者数	32,534人 (H21年)	32,500人	27年度	—	—	平成21年経済センサス基礎調査数値のため
	04 企業誘致の取組	企業誘致に係る情報発信件数	0	3	27年度	0	0	

市民との協働方策		《平成26年度末時点の活動状況》	《平成27年度の改善のポイントや重点方向等》
	01 商店街を活用したイベントの開催	<ul style="list-style-type: none"> ・商業パワー全開事業補助金を活用し、4商店街が独自のイベントを実施 ・商業パワー全開事業補助金を利用し、新たな試みを取り入れた伊東湯のまちバルが開催された。 ・キネマ通り、中央通り商店街を会場に伊東温泉綱引き合戦を実施 ・商店街連盟主催の按針祭ビッグスマイルセールを実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・商業パワー全開事業補助金の利用促進を図り、より多くの商店街に対して課題解決のために行う事業を支援することで、商業の活性化につなげる。

《実績評価》
(1) 基本計画指標の達成度
<ul style="list-style-type: none"> ・商品販売額については、平成24年度以降経済センサス活動調査数値が出ていないため達成状況の把握ができていないが、住宅リフォーム助成等、ニーズに対応した経済対策を行うことで、建築関連業を中心に市内商工業の振興を図っている。 ・製造品出荷額については、東日本大震災の影響による落ち込みから持ち直しつつあるものの厳しい状況が続いている。

(2) 「目的を達成するための具体的な方策」の達成度

【01商工業への支援体制の強化】

- ・住宅リフォーム助成件数については、平成26年4月の消費税増税の影響で利用者数が落ち込みむと予想されたが、平成26年度に関しても堅調に利用が進んだ。予算の消化状況に応じ9月、3月に増額補正したことで切れ目のない経済対策となり、目標を大きく超える利用数につながり市内建築業者の振興が図られた。
- ・中小企業に各種制度融資に係る利子補給を行うことで、中小企業者の経営基盤強化を図った。県制度融資等の利用が減少していることで目標には達していないが、市小口資金に関しては前年を上回る利用となっている。

【02地域商業の活性化】

- ・商業パワー全開事業により、自主的に新たな賑わいづくり等に取り組む商店街を支援し、集客アップを図った。
- ・個店活力推進事業を通して、やる気のある個店の経営支援強化に努めた。
- ・お菓子共和国事業への助成を行い、伊東のお菓子をPRすることで、菓子関連業界の振興を図った。

【03雇用の確保】

- ・高齢者労働能力活用事業により、高齢者の就業機会の拡大と福祉の増進を図り、高齢者の能力をいかした活力ある地域社会づくりに努めた。
- ・三島公共職業安定所所長及び管内首長の連名により、新規学校卒業者等の採用枠拡大の要望を企業等に行った。

【04企業誘致の取組】

- ・県からの情報収集には努めているものの、企業誘致に係る具体的なビジョン・計画がないため、情報発信や具体的な誘致の取組みには至っていない。
- ・企業から問い合わせがあった場合、企業が要求する情報を出来る範囲内で収集し、誘致に繋がるように努めた。

方策コード		手段（4桁コード）内容	管理指標	実績 (H26年度末)	目標	期限	《平成27年度の改善のポイントや重点方向等》
2桁	4桁						
01 商工業への支援体制の強化							
0101	住宅・店舗リフォーム工事費の助成による建築関連業の振興	リフォーム工事費助成件数	370件	370件	27年度	01商工業への支援体制の強化 ・住宅リフォーム工事費の助成については、平成26年度繰越明許分と合わせての増額予算により、市内建築関連業の振興と市内経済の活性化を推進する。また、店舗リフォーム工事費の助成については、制度の周知及び利用促進に努め、魅力的な個店を創出することで、小規模事業者の活性化を図る。 ・木造住宅建替支援事業については、更なる周知を行い利用促進を図る。	
0102	木造住宅の建替に対する助成による建築関連業の振興	木造住宅建替経費助成件数	10件	10件	27年度		
0103	小口資金等の制度融資への利子補給による中小企業への金融支援	小口資金融資取扱い件数 中小企業等資金融資制度貸付金への利子補給件数	155件 85件	160件 180件	27年度 27年度		
02 地域の商業の活性化							
0201	創意工夫による商店街のにぎわい創出事業や買い物弱者支援のための環境整備事業に対する支援	補助金交付件数	5団体	6団体	27年度	02地域の商業の活性化 ・プレミアム商品券事業と連動したイベント等を実施する商店街に対し支援を行い、商店街の活性化を図る。 (商業パワー全開事業補助金) ・伊東お菓子共和国の一般国民の募集、イベントの実施を通じ、知名度向上及びファンの獲得を図る。	
0202	意欲のある個店に対し、中小企業診断士による経営支援強化を実施	参加店舗の売上（対前年比）	4.7%増	10%増	27年度		
0203	菓子等の地域魅力となる産業の支援	菓子共和国加盟事業所数	49事業所	50事業所	27年度		

03 雇用の確保						03雇用の確保 ・離転職者を対象としたパソコン講座の開催や、技能労働者を育成する伊東職業訓練協会への支援を行うとともに、高齢者の就労相談や雇用促進を図るため、シルバー人材センターが行う各種事業に対する助成を行い、雇用の確保に努める。 ・起業支援制度の利用促進を図り、雇用の創出につなげる。
0301	パソコン講座の開催による離転職者の再就職支援	パソコン講座受講者数	17人	24人/年	27年度	
0302	ハローワーク、高等学校等の関係機関との情報交換	雇用問題懇談会の開催回数	0回	2回/年	27年度	
0303	伊東高等職業訓練校の活動支援による建設・製造業に関わる人材の育成	訓練生数	17人	23人/年	27年度	
0304	シルバー人材センターの活動支援による高齢者の就業機会の拡大	受注件数	1,684件	1,800件/年	27年度	
04 企業誘致の取組						04企業誘致の取組 ・現況を把握し、本市に適した企業誘致について協議する。
0401	企業誘致に関する調査及び情報収集・首都圏等への情報発信	情報発信件数	0件	3件	27年度	

政策目標	4	場の力が創造する魅力・活力のあるまち	課（係）名	◎産業課 ○農業委員会事務局		
施策分野	5	農林業の振興	作成年度	平成27年度	（更新日）	平成27年4月1日

目的	管理指標	実績 (H26年度末)	目標	期限	左記指標の過去の推移			
					(H24年度末)	(H25年度末)	備考	
基本計画	意欲ある担い手が育成確保され、農林業が安定的に営まれるまちを目指します。	耕作放棄地面積	44ha	41ha	27年度	49ha	46ha	耕作放棄地全体調査結果（赤判定14haを除く）
		エコファーマー数	122人	148人	27年度	119人	120人	持続性の高い農業生産方式導入促進法認定者
目的を達成するための具体的な方策	01 担い手の育成・確保	認定農業者数	12人	22人	27年度	13人	12人	農業経営改善計画認定者
	02 鳥獣被害防止及び耕作放棄地対策	鳥獣被害金額	5,516千円	4,345千円	27年度	12,038千円	5,926千円	伊東市鳥獣被害防止計画（3年計画）
	03 食の安全・安心への取組及び食育の推進	エコファーマー数	122人	148人	27年度	119人	120人	
	04 森林整備事業の促進	累計整備面積	277ha	300ha	27年度	250ha	268ha	森の力再生事業ほか
	90 活発な農業委員会運営	利用権設定面積	5.4ha	6.1ha	27年度	5.1ha	4.8ha	

市民との協働方策	《平成26年度末時点の活動状況》		《平成27年度の改善のポイントや重点方向等》
	01 観光と連携した地産地消の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・地産地消推進協議会において第3回めっちゃ美味グランプリを開催し、4店舗による創作料理を競った。 ・ファーマーズマーケット、いとうの朝市による地場産品の直売 	<ul style="list-style-type: none"> ・「伊豆・いとう地魚王国」において、第1次産業から第3次産業までの関係団体の協働により、伊東の食文化を戦略的に発信する。
02 市民参加の森づくり推進	<ul style="list-style-type: none"> ・健康保養地づくり事業にてNPO法人等の森づくり団体と協力し、市民が自然とふれ合える機会を創出した。 ・森林所有者や地域住民等が協力して森林の有する機能を発揮させるための保全活動の取組に対して支援した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・森林ボランティアや地域活動組織が行う事業を支援し、多くの一般市民が気軽に森づくりに参加できる環境を整える。 	

《実績評価》

(1) 基本計画指標の達成度

・耕作放棄地解消は国の耕作放棄地再生利用対策及び県の耕作放棄地解消総合対策事業費を利用し、さらに市補助を付け増し、取組者に対し助成を行った。このことにより、優良農地の再生ができ、周辺農地との一体性が再現され、地域全体への啓発がなされた。

(2) 「目的を達成するための具体的な方策」の達成度

【01担い手の育成・確保】・農業委員会、JA及びNPO法人郷組と新規就農者への今後の支援策等についての話し合いを行った。

・荻地区において農地中間管理事業の募集を行った。

【02鳥獣被害防止及び耕作放棄地対策】

・鳥獣被害対策については、緊急雇用創出事業を使った、鳥獣被害防止対策事業において大きな成果があった。

・耕作放棄地対策については、国の耕作放棄地再生利用対策を利用した耕作放棄地再生や、農地・水保全管理支払事業による農地保全対策に取り組み、耕作放棄地2.33haを解消した。

【03食の安全・安心への取組及び食育の推進】地産地消推進協議会による、第3回めっちゃ美味（ワ）グランプリを開催し、観光と連携した地産地消の推進を図った。

【04森林整備事業の促進】

・森の力再生事業を中心に整備を進めるとともに、地域住民や森林ボランティアと協働した市民参加の森づくりが推進できた。

方策コード		手段（4桁コード）内容	管理指標	実績 (H26年度末)	目標	期限	《平成27年度の改善のポイントや重点方向等》
2桁	4桁						
01		担い手の育成・確保					01担い手の育成・確保 ・池地区での集落営農組織の立上げに支援し、農地中間管理事業の推進を図る。 ・NPO法人郷組が開設した担い手育成型市民農園利用者に対し、積極的に就農支援を行い、担い手の確保につなげる。 ・新規就農希望者の相談に対し、継続的な支援ができるよう名簿に登載する。
0101		認定農業者の認定	認定農業者数	12人	22人	27年度	
0102		新規就農者に対する支援	新規就農者数	0人	5人	27年度	
0103		就農希望者に対する支援	就農希望者名簿搭載数	12人	20人	27年度	
02		鳥獣被害防止及び耕作放棄地対策					02鳥獣被害防止及び耕作放棄地対策 ・あいら伊豆広域有害鳥獣対策協議会を中心として、関係機関と連携し、駆除及び被害防止対策を行う。 ・住環境における鳥獣被害に対し、箱わなによる捕獲を実施し市民生活の安全を図る。 ・耕作放棄地再生利用交付金を活用した再生事業を継続して行う。
0201		有害鳥獣駆除（猪・鹿・ハクビシ・タヌキ）	駆除頭数（市許可分）	1,461頭	1,400頭	27年度	
0202		狩猟者の確保（第1種・2種銃猟及びわな猟）	猟友会及びわなの会会員数	172人	172人	27年度	
		0203	耕作放棄地解消事業の実施	耕作放棄地面積	44ha	41ha	27年度
03		食の安全・安心への取組及び食育の推進					03食の安全・安心への取組及び食育の推進 ・第1次産業から第3次産業までの関係団体が協働し、伊東の食文化を戦略的に発信し、地産地消を推進する。 ・有機農業に取組むNPO法人と連携し、安全で安心な農産物の普及を図る。 ・農業体験事業を通じ、食料自給率の実態を身近に感じてもらう食農教育を行う。
0301		持続性の高い農業生産方式の導入促進	エコファーマー数	122人	148人	27年度	
0302		環境保全型農法技術指導	受講者数	146人	200人	27年度	
		0303	地産地消のための商品開発、流通経路開拓	開発商品採用件数	13件	15件	27年度
04		森林整備事業の促進					04森林整備事業の促進 ・里山講座について、より多くの一般市民が気軽に森づくりに参加できるような講座内容で開催する。 ・松くい虫防除について、業者発注による予防剤注入を計画的に行うとともに、地元ボランティア団体と協働し、予防剤の注入を行う。 ・森林所有者や地域住民が協力して森林の有する機能を発揮させるための保全活動を行う活動組織を支援する。
0401		森林の荒廃防止のための林道、治山対策の推進	林道災害発生件数	7件	0件	27年度	
0402		自然と親しむことのできる森林の整備	森林整備面積	277ha	300ha	27年度	
		0403	森林ボランティア育成	里山講座参加者数	60人	100人	27年度
90		活発な農業委員会運営					90活発な農業委員会運営 ・遊休農地保有者への指導を通して、利用集積につなげる。
9001		農業経営基盤強化促進法に基づく農用地の利用集積	利用権設定面積	5.4ha	6.1ha	26年度	
		9002	農業者年金の加入推進	加入者数	4人	5人	26年度

政策目標	4	場の力が創造する魅力・活力のあるまち
施策分野	6	水産業の振興

課（係）名	産業課	
作成年度	平成27年度（更新日）	平成27年4月1日

目的	管理指標	実績 (H26年度末)	目標	期限	左記指標の過去の推移			
					(H24年度末)	(H25年度末)	備考	
基本計画	意欲ある担い手が育成確保され、水産業が安定的に営まれるまちを目指します。	水揚げ数量	5,275トン	6,400トン	27年度	4,980トン	4,324トン	暦年統計
目的を達成するための具体的な方策	01 担い手の育成・確保	漁業者数	319人	380人	27年度	330人	327人	暦年統計
	02 安定した漁業の推進	水揚げ高	1,007百万円	1,140百万円	27年度	926百万円	858百万円	暦年統計
	03 魚食の普及	魚おろし方教室参加者数	155人	200人	27年度	159人	149人	

市民との協働方策	《平成26年度末時点の活動状況》		《平成27年度の改善のポイントや重点方向等》
	01 観光と連携した地産地消の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・めっちゃくちゃ市で、地元食材を使った海鮮汁の無料配布を行った。 ・第3回めっちゃ美味グランプリを開催し、市内4団体が出店し、地元食材を使った創作料理を競い合った。 	「伊豆・いとう地魚王国」において、地産地消推進協力店舗のPR活動を行うとともに、未利用魚等の有効利用促進と加工品の開発及び販路拡大の検討を行う。

《実績評価》

(1) 基本計画指標の達成度

・水揚げ数量は平成24年、25年と2年連続減少に転じていたが、平成26年度においては、前年度と比較すると大幅な増加となった。しかし、依然として水産資源が減少傾向にあるため、今後も目的達成のための施策を継続して講じていく。

(2) 「目的を達成するための具体的な方策」の達成度

【01担い手の育成・確保】伊東港の船台が老朽化していたため、施設の更新を行う漁協に対し、水産業共同施設整備事業として補助を行い漁業者の利便を図った。しかし、漁業者の減少傾向を抑えるまでに至っていない。

【02安定した漁業の推進】骨肉分離機によるサバのすり身商品のPRや、すり身を使った新たな商品（はんぺん等）を開発するとともに、昨年に続きFish-1グランプリにキンメを使った「金のだし茶漬け」で出店し、グランプリを獲得するなど、漁協の積極的取組を支援し、魚価の安定化が図られた。水揚げ高の増には至っていないが、継続した取組が必要である。

【03魚食の普及】中・高校生及び子育て中の母親を対象とした魚教室を実施し、参加者は155人であった。また、水産業振興会や地産地消推進協議会によるイベント等で魚食の普及、地産地消を図った。

方策コード		手段（4桁コード）内容	管理指標	実績 （H26年度末）	目標	期限	《平成27年度の改善のポイントや重点方向等》
2桁	4桁						
01		担い手の育成・確保					01担い手の育成・確保 ・漁業者の就労改善や作業効率の向上のため、魚体選別機の導入を行うという漁協に対し補助する。
	0101	漁業設備の高度化に対する支援	漁業近代化利子補給件数	4件	5件	27年度	
	0102	青年漁業者等の育成	認定漁業士数（累計）	4人	10人	27年度	
02		安定した漁業の推進					02安定した漁業の推進 ・いとう漁協が取組む放流事業などを推進し、より効率的な方法に関連機関と協議し、つくり育てる栽培漁業を推進する。 ・サバ等のすり身を使った新商品の開発により、魚のブランド化を図るとともに、スーパー直販など流通経路を拡大し、魚価の安定・向上を図る。
	0201	沿岸漁場での資源拡大対策の推進	各種放流魚等水揚げ量	14トン	34トン	27年度	
	0202	ブランド化の推進と流通経路の拡大	スーパー直販水揚げ量	30トン	75トン	27年度	
03		魚食の普及					03魚食の普及 ・中・高生、子育て中の母親を対象に魚のおろし方教室を開催し、魚食の普及を図る。 ・いとう漁協が実施している魚のすり身加工品を利用し、地産地消、6次産業化を図り、各種イベントにおいて積極的なPRを行う。
	0301	魚のおろし方教室の開催	教室参加者数	155人	200人	27年度	
	0302	伊東温泉秋のおさかな市の開催	来客数	4,500人	8,000人	27年度	
	0303	各種イベントへの参加等PR	回数	4回	5回	27年度	